

13. 織物のドレープ性に関する実験

京都女子大

北田 総雄

山名 信子

青木 澄子

1. 織物のドレーパビリティは、織物の種々の用途において物理的あるいは美的に問題となる。織物の物理的性状がドレープにおよぼす影響は少なくなく、従来より理論的、実験的に多くの研究が行われているが、それらは主として2次元的な内容を持ったものが多い。そこで

ドレーピングの時の垂下長を含めた種々の量的測定を行ない、これらについて3次元的に織物のドレーパビリティの評価を試みようとした。

2. 柔軟度の異なる数種の織物を試料として、ドレープ測定器の支持台面積と試料面積とを変化させてドレープ投影図を作り、これを測定した。

3. ドレーパビリティの評価は従来のドレープ係数だけでなく、葉形、ドレープ角などを考慮に入れた評価が必要である。